

令和2年度第3回 第三吾婦小学校 校長「語らいサロン」
テーマ『学習室「みどり」について』
～「学校に行きたくない子どもたち」
「集団になじめない子どもたち」～

令和3年11月6日(土) 9:00-10:10
集会室・Zoom ミーティングルームにて
参加者 保護者10名(対面7, オンライン3)



川中子 それでは、皆さん。おはようございます。今日は土曜日の朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。オンラインの皆様も、参加ありがとうございます。10名の方が、今日、参加していただいています。ぜひ、有意義な会にできればと思いますので、ご協力よろしくお願いします。それでは、最初に、ご参加の皆さんの方から、お子さんの学年など簡単にご紹介していただいてよろしいですか？

Aさん おはようございます。5年と2年に息子がいます。よろしくお願いします。

Bさん 5年と1年に子どもがいます。よろしくお願いします。

Cさん 4年に子どもがいます。今日は、9時40分くらいまで参加します。よろしくお願いします。

Dさん 2年に子どもがいます。よろしくお願いします。

Eさん 6年生と1年生のEです。よろしくお願いします。

Fさん 5年に息子がいます。よろしくお願いします。

Gさん 6年に男の子、4年に女の子がいます。よろしくお願いします。

Hさん 5年と3年に娘がいます。よろしくお願いします。

川中子 それでは、オンラインの皆さんもお願いします。

Iさん 1年生のIです。よろしくお願いします。

Jさん 5年と3年に子どもがいます。よろしくお願いします。

Kさん 3年生のKです。よろしくお願いします。

川中子 はい、ありがとうございます。それでは、今日は、テーマが「学習室『みどり』について」といことで、サブタイトルとして「学校に行きたくない子どもたち」「集団になじめない子どもたち」となっています。

(ここから15分くらい、資料の説明)

1 「学校に行きたくない子どもたち」 令和3年10月13日文科相の調査結果の概要から、不登校児童・生徒の状況について 三吾小の子どもたちのここ3年間の推移などについて説明。

2 「集団になじめない子どもたち」 発達特性のある子どもたちの苦手なことについての説明

キーワード 「不安」と「エネルギー不足」

川中子 ここまでのところで、何かお感じのところはありますか？

Hさん 数が少ないなという印象です。私も高校の教員をやっているんですが、高校生でもかなりの生徒が、来られない生徒が多いので、この数字が学校全体でということですよね？(はい)少ないのかな、という印象を得ました。

川中子 そうですね。近隣の中学校の話聞いても、中学校ではウン十人なんていう話も聞いていますので、小学校はまだ少ない方ですね。中学に上がるときに、いろいろと環境が変わるので、行けなくなってしまうお子さんも多いようです。高校だとまた、どういう感じなんでしょうか。

Hさん そうですね。私の学校だと、大きな学校なので、一学年480名くらい入学しますが、卒業した子たちが450人になってしまう感じですね。結果的に30人が転学だったり、退学だったりしています。

川中子 そうですか。年が上がっていくと、小学生の状況とは、ちょっと違うのかもしれないですね。

Hさん そうですね。全日制高校なので、こういう「学習室『みどり』」みたいなものはないので、来られないと、義務教育ではないから欠席日数がオーバーしてしまうということになってしまいますので。そういう意味で、学校選びがすごく大事なと思いますね。

川中子 そうですね。それでは、そういうお子さんたちに対して、私たちに何ができるかなと考えまして。特に、**去年の状況を見て、そういう、教室には入れないお子さんに、「それじゃしょうがないですね、バイバイ！」**っていうのでは、**ダメだろうと**。何ができようかと、考えていたときに、以前横浜の中学校で校長をしていた方の話を聞いたことがあって、その方は、リクルートからの民間校長で、赴任した学校に不登校の生徒が非常に多かったので、何とかしようと、その子たちのための特別なクラスを1組、2組、3組と同じように一つつくったんですね。そこに、ちゃんと「担任」もつけて。それで、学校に来られるようになった子がたくさんいて、という話を聞きました。その後、その方は広島県の教育長になられて、現在、広島の学校にはどこにもそういう特別なクラスが設置されているそうです。そういうのが、本校でもできないかなと考えました。

でも、それは学校だけでできる問題ではなく、いろいろな難関がありました。そういう教室をつくるためには、「場所」「設備」というハード面と、「人」の配置というのが必要です。幸い、本校は児童数も多いので、今年は教員数に少し余裕がありましたので、何とかうまくやれば、そこに人を配置できるかもしれない…、と思っていたら、お休みになる先生が出てしまい、難しくなっていました。

場所は、もう、ここしかない！というのが一つだけありました。ランチルームです。墨田のランチルームは、とてもよくできていて、明るくてきれいな部屋でしたが、現在コロナの影響で会食ができなくなっていますので、使われないもったいない部屋になっていました。栄養士さんが、ランチルームを別の用途に使うのを嫌がっていたのですが、今、産休でお休みになってしまっていて。それに、これからはランチ

ルーム給食はできないだろう、ということで、決断しました。

特別な部屋をつくるに当たり、スクールカウンセラーに相談して、そんなに広い部屋じゃなくてもいいだろうということになったので、とりあえず、ランチルームを半分に分割して。そうしたら、ランチルームのテーブルはこんな形になっていたので、これはいい！と。つくってみたら、こんなに明るくて素敵な部屋になりました。

せっかくなので、部屋の名前を考えようと、教員に募集をかけたところ、10こ位の案が出され、最終的にGREEN ROOMというのが「待合室、待機室」という意味で、「教室に戻る前の待機室」みたいなイメージだという案がいいだろうとなり、私が和名にしようということで「学習室『みどり』」となりました。こうして、**6月から運用がはじまり、現在4、5人の子どもが毎日のように利用しています**。残念ながら、きちんと教員をはることができませんので、**実際には自習室のようになっていて、担任が時々のおきに来たり、あいている教員が、ある時間だけ見に来たり、という感じですが、全体的には自分たちですごしています**。多いときは3人くらいが同時に使っています。異学年の子どもたちです。

こうなってくると、その中で、仲良くなってしまっていて、勉強じゃなくておしゃべりしたりしているだけになって、教員の中から「これでいいの？」という疑問が上がるようになりました。そこで、一応、この部屋も「自立・共生・健康」を目指すところですよという、簡単な決まりを話したりしました。

中にはお母さんと一緒にきて、勉強している子もいます。ここで給食も食べています。

教員はまだ、教室に戻ってくるまで、と考えているようなんですが、私自身は、もう少し先を見て、この多様性の時代の新しい学び方の一つとして、**最終的に「教室に戻る」をゴールにする必要はない、と考えています**。いろんな学び方があって、そして、それに対応できるように学校はなっていくんじゃないかな、と。

この子たちが、教室には入れなかったり、集団になじめなかったり、それから、クールダウンが必要だったり。「まなびの教室」というのもあるんですが、そこだけで支援しきれない子どもたちだったり。**こういう子たちに共通しているのは、さっきの文科相のデータにもありました「不安」であったり、「エネルギー不足、充電切れ」であったりすることが多いんですね。「サボっている」のとは違うんだ！**っていうのをわかってあげないといけないので。昔だったら、「学校に来ないで、何かサボってるんじゃないか？」なんて思われていたんですが、そうじゃないんだっていうことを分かってあげないといけないんだと思っています。その子たちにはその子たちの学びを保証してあげないといけないということを、今、私は考えているわけで、**近い将来、学校はそういう風にならなくなっていくんじゃないかと思っています**。ヨーロッパの学校なんかでは、もう、時間割りする存在しない学校もあるんですよ。子どもが朝登校してきて、今日は何を、どう勉強するか自分たちで決めて、先生はそこをぐるぐる回って、「何かお手伝いできることはありませんか？」と、「ありません！」と。そんな学校もあるんですね。

というような、部屋をつくってみましたが、何かこのことについてお感じになることがありますか？

Aさん ……すごく…いいな、と思いました。正直、自分のうちのことを言っちゃうと、長男がそういう状態で。中学校、行ってるんですけど、今学校に行ってるじゃないんですよ。

最初はやっぱり、なんで行かないのか？っていう「理由」を探って。理由から変えていこうというところだったんですけど。やっぱり、いくつか思い当たることはあったんですけど、「何となく行きたくない」っていう。理由を説明する事ってすごく難しいし、自分も、今日は何だか行きたくないと思うこともあることを思うと、大人だってそうなんだから、子どもならそう思っても…。先生も言っていたとおり、**そこ(理由)は突き詰めるところじゃないんだなと思うし**。今の時代、本当に、うちは今中3なんですけど、4月から行ってないんですけど、**学校に、クラスに戻らせることが目的じゃない、っていうのは私もすごく感じていて**。不登校の方の家族会っていうのに行っただけです。行ってみたら、中学校の親は私だけで、他の人は私の親世代の方たちが、40代、30代の人たちが引きこもっていて。その方たちが一回学校で不登校を経験して、学校には行けるようになったんだけど、会社でいやなことがあったら行かなくなっちゃうとか、基本的にそういうのが続いているっていうことが、現実、あるんだなあと思

ったら、今学校に、クラスに戻すって言うのは、何のためなんだろう？
って思って…。先程、「みどり」が自習室みたいになっちゃってるっ
てお話しがあったんですけど、そういうのも…。そういうところでチ
ャージしているわけだから、それで元気になって過ごせるならいいん
じゃないかなとも思うし、**本当に、長い目で見るというのが、すご
く必要だと思えます。**それから、クラスがいろいろ、っていうのも
いいなって思えます。昔から決まっているから、こうやって来たから
って言うのは、今はもうそういう時代じゃないんじゃないかなって思
います。今日は、何か、うれしくなりました。



川中子 ありがとうございます。では、Cさん。

Cさん はい。今、まさに、葛藤している最中っていう感じなんです、実は。
きょうだい二人いるのに、まったく違う性格で。本当に、子どもの個
性っていうのはそれぞれなんだなってすごく思っています。学校もこう
いう風に考えてくださっているというのが、心強いというか…。**放課
後だったら行けるかも、って言ってくれているところもあって、じゃ
あ、放課後に学べる機会があったらいいな、とか。その子なりに学べ
る方法を整えてもらえたら、子どもたちがその子なりにやりたいこと
をやりたいうきにやりたいうにできるっていうそういう環境になっ
ていったらいいな、って今すごく感じています。**こういったことを学
校で考えてくださっているっていうのはすごくうれしいし、悩みを持
っている親御さんたちには心強くなって感じています。ありがとうござ
います。

川中子 ありがとうございます。先日、PTA協議会の研修会できいたん
ですけど、その先生も自然の教室っていうのをやってらっしゃって、そ
こに不登校を経験しているお子さんがたくさん参加しているって話が
あって。今のお話しにもありましたが、**子どもたちのやりたいことを、
子どもたちにやりたいことをやらせてあげることでエネルギーが出て
くるようになる**って話を、その先生も、さかんに話していましたね。
やりたいことをやらせてあげるだけでいいんですって。なかなかやり
たいことをやらせてあげるのって難しいですね。「みどり」でも、
子どもたちが自由にみんなトイレに行ったりして、それでいいの
かな？って話になるんですが。ただ、あまり「ああしなさい」「こうし
なさい」っていうのでは、意味のない部屋になってしまうので、まあ、
そういうのもいいのかなあと考えています。他、いかがですか？

Bさん うちの、O小の言葉の教室に通ってるんですけど、最近泣きなが
ら行くんですね、行きたくない！と。今年だけ頑張っていたら、来年
は行かなくなっていいから！って言うてるんですけど。いやだ、いやだ
って言って。でも、**宇宙のことがすごく好きなんです。私も知らな
かったんですけど、YouTubeとか図書館行って、宇宙のことをよ
く調べていて、そのことをたまたま言葉の教室の先生に言ってみたら、
「次回、宇宙の本を使ってやってみましょう。」**と仰ってくださって。
やったら、すごいやるんですよ。休み時間も途中にあるんですけど、
休み時間もいらなくなって！好きなことをメインでやっていった
方がいいんだとも思うんだけど、学校だと好きなこと以外のこともや
るから。好きな教材じゃないのでやると、まったくできなくなったり
して。**宇宙のこととか、好きなことでやると、読んだり書いたり、作
文書いたりすごく。家でも、トッピングを3ページもやっちゃって。
それでいいのかもしれないけれども、ダメのような感じもするし、っ
ていうモヤモヤ？**でも、私も子どもの時には、やなものはやらな
かったし。私は算数が好きじゃないので、算数はやらなかったし。自分
だってそうだったんだから、子どもにやれって言ったって、無理なもの
は無理なんだから。そう思いながら、何かもやもやしたものもあり
ます。三吾小にも言葉の教室を作ってもらえるといいんですが。な
んでほくだけO小へ行かなければならないのかって言うんですね。

川中子 今の「まなびの教室」って言うのは、数年前までは今の言葉の教室
と同じで、地域にここの学校が決まっています、そこまで保護者
の方が送り迎えしていたんですね。それがあまりにも多くなって、保
護者の負担も軽減するために、各学校に設置されるようになったん
ですね。そういう教室も今後どんどん増えていく可能性がありますね。
本校では今40人くらいの子が活用していますが、学校によって考え
方が違っちゃってるのかなって思うんですが、他の学校だと5、6人
だったり。私は、もう積極的に活用して、一人一人の苦手なところを
練習して、できるようになったら戻ってくるっていうのがいいと思っ
て保護者の方にも勧めています。「特別支援教室」なんて言ってるか
ら、「特別？」何じゃないかと思ってしまう人もいますが、そうじゃ
なくて。私も教えてたときには、自分のクラスの子を見ていて、「普

通な子」って誰だ？と調べてみたとき、誰もいない。一人一人はみん
な違う存在で、みんなが特別なんだって思いました。それをみんな「普
通に」やろうとするから、はみ出しちゃう子もでてくるわけで。まあ、
今は過渡期なので、やろうとするとまだ難しいところもあるんですが。
これから制度化されていくと、予算もついて、うまくいくようになる
かと思えます。実際、**墨田区では中学校で2校が、そういう特別な予
算を組んでもらって、「みどり」みたいな教室をつくっています。ち
ゃんと大人もついてます。**先日、教育委員会でこの「みどり」の
話をしてきたんですが、それはいいですねと仰ってくださったので、こ
ういうのが広まっていくと、それじゃ小学校でも予算化しましよっか
ってなっていくんじゃないかなと！区民の方々が、「小学校にもこ
ういう部屋が必要だ！」って仰ってくださるとできるかもしれません
ので！皆さんの力をお借りできれば！では、他いかがですか。Dさ
んいかがですか。

Dさん 保育士をやっているんで、いわゆるパニックになる子ですとか、集
団になじめない子はいます。お昼寝するときにも一人だけ走り回ると
か。そういう、みどりの部屋みたいのがあれば、ちゃんと落ち着か
せられるのに、って思っても、そういう部屋はなくて。できればあれ
ばいいのになあと思っていたので。それは、他の小学校にはまだない
んでしょうか？

川中子 私は聞いたことがないですね。ありがとうございます。では、E
さん。

Eさん 私は自分の子どもが6年生にいますけど、その子が以前一時期
友達のことを悩んでいて学校に行きたくないって言ったことがあつ
たんですね。担任の先生とは相談していたんですが、ある日、学校にい
く用事があったとき、担任の先生じゃない先生から「その後い
かがですか？」って声をかけていただいて。そうやって、**学校の先生
たちがみんなで一人の子の様子を共有してくれてるって知って、
とても安心しました。**学校の先生方がみんなこういう風に考えてくれ
ているんだなって、すごく感謝しています。下の子ども先日、体育学習発
表会で心配になってしまっ、朝も遅れてきたんですね。その時も先
生がいっぱいフォローしてくださって。1年生なのでとても緊張して
いたので、それを先生が汲んでくださって、何とかやれたんですね。
本当に学校の対応には感謝しています。

川中子 ありがとうございます。Fさん。

Fさん すごく難しいと思うのは、**何かをやりたくないって言う言葉を発
することとそのもの自体が嫌いというのはまったく違うのかと。**やっ
ぱり、親もそうかもしれませんが、学校も教育の仕方が変わってきて
いるので。昔だったら、悪いことしたら、学校で先生に殴られて、廊
下に立たされて、いうのがありました。それを暴力と呼ぶのか、教育
というのか。私は小さいときからそれは教育だと思っていたんです
が、今は怒られることはあってもきつく叱られることはない。そう
いう中で、遊びたい、いろんなことがある中で。この前も、研修の時に
先生がおっしゃっていたのが、そこに集中しているのは、**例えば、ゲ
ームに集中しているのは、何かから逃げている。何かの原因だから、
そっちを見つけてあげないと解決できない、**という話を聞きました。
それを聞いて、ああそうか。ゲームをやれることが悪いことではない。
何か別に思うところがあって、ただそれを表現できないのでは。ささ
きの宇宙の話ではないですけど、**本当に好きなことを見つけてあげられ
ると、もっといい方向に導いてあげられるのかな。**と、思いつつ、自
分の息子にはまだ全然できてないなと。

川中子 ありがとうございます。では、Gさん。

Gさん はい。**大人でも、会社に行けない人っていうのがいて。**うちの会社
でも常に何人か。で、まあ、企業だと、どちらかというと、切り捨て
ちゃう？事も多いんですけど、だから、子どもだけの問題じゃないん
だなって思えます。子どもだからわかんない、じゃなくて、どの世代
にもあるのかな。子ども特有のことじゃなくて、もっと広い範囲でも
見た方がいい問題だなと。何が原因か分からないんですけど、解決方
法もあるんじゃないかなと。何年前か、総務をやっていたので、そう
いう来られなくなった社員、一人暮らしの社員。生きてるかどうか見
て来い、って、自宅まで見に行ったらもありました。そう言うの
って、**子ども特有のことではないので、もっと広く見ていきたいな
って思っています。**

川中子 本当にそうですよね。確かに。それでは、オンラインで参加されて
いる皆さんにも一言お願いできればと思います。Kさん、いかがです
か。

Kさん はい。私の娘は、今まさに、みどりの部屋に通っています。**教室が
怖い、行きたくても行けない。そういう状況で、親の私もやっと…
やっと理解してあげることができてます。みどりの部屋は、明るくて
大人でも落ち着く場所です。**こういう場所を提供していただいたこと
に、本当に感謝しています。それと、さっき校長先生からのお話があ
ったように、**教室（に戻る）がゴールではない、っていうのが、
とても肩の荷が下りました。**ゆっくりですが、少しずつ、今いい方向
に向かっています。私もすっかり寄り添って、やりたいことをやら
せてあげたいと思います。今日はありがとうございます。

川中子 はい。どうもありがとうございます。これからはよろしくお願
いしますね。では、Jさん。

Jさん はい。今、私の息子のお友達がみどりの部屋に通っています。息子
自身も不安定になったり、仲のよいお友達がみどりの部屋に行くこと
で不安定になったこともあったんですけど、一緒に下校できたりす
とか、そういう特別に先生が与えてくれたみどりの部屋という存在が
あったから、放課後その子と遊べたりとか、息子の安定にもつなが
っているし、そのお友達の明るさだったり、笑顔だったりを見ていた
ので、今回みどりの部屋があることが、すごくありがたく思っています。
ありがとうございます。

川中子 ありがとうございます。これからはよろしくお願います。はい、
では、Iさん。

Iさん ありがとうございます。冒頭、**不登校の要因というお話しがあ
りましたが、理由という理由がないというか、漠然とした不安という
ところが原因になっているというの、自分としては意外な感じ**で。ま

あ、誰がそういう状況になってもおかしくないんだなというのを改めて感じました。そういった中で、**こういうみどりの教室を作っていただいたり、校長先生がそういった思いをもって運営していただいているのが、ありがたいなと思いました。親としては、どうしても、子どもにこうあってほしいとか、こうでないと行けないというような考えになりがちなんです、私もそういうのに気がつけて。**多様性の時代というお話もありましたけど、個性として、子どもを見守っていききたいなと思いました。ありがとうございました。

川中子 ありがとうございました。Hさんいかがですか。

Hさん 高校に勤めているもので、今、いろんな学校があるので、どういう学校なのかをよく見て選ぶことが大事だと思います。学校も多様化していますので、保護者もそれを決めるのが大事だと感じています。

川中子 ありがとうございました。もう、時間も過ぎちゃってるんですが、**私も少し… 不安があったんですね。この話題で、うまく話ができるかなって。**でも、本当に今日、話をして、これだけの方に集まっていたら、やってよかったです。ぜひ、今日、皆さんに伝えたかったのは、**学校に行きたいくない、とか、なじめないというのが、悪いことではないんだ！というふうに学校は捉えています。それをぜひ知っていただきたいんですね。**何か、「普通じゃないといけない」というのは、そっちが間違いだと。一人ひとりが、自分の可能性を見つけて伸ばしていけるような機会を作ってあげることが、そのことが大人になったときの引きこもりの解消につながるんじゃないかなと思います。それから、今日、あんまりお話しできなかったんですけど、**今、例えばみどりの部屋で教室の授業の様子を見たいと言ったら、オンラインで授業の様子を見せることもできるようになっています。**実は先日も、2週間一人のお子さん、別室でオンラインで授業を受けてもらったりしたこともありました。まあ、こういうの（PC画面）を見ながらの勉強は大変なんですけど、それでも、一生懸命2週間やりましたね。そんなことも今、できる時代になってきていますので。それも、こういうのがもうちょっといいのがあると、やりやすくなるので、それも区のほうからお金がもらえたらもっと整備もできていくんですけど。そうしたら、もっと可能性もひろがるのかな。本当に、今「大人だから」「子どもだから」というのはなくなってきましたよね。先日のオリンピックでも、13歳の子が金メダルとったりとか。大人は思い込みばかりなので、その思い込みを捨てていかないと、本当に子どもの良さを伸ばしていけなくなっちゃう。とはいえ、**やっぱり、親として不安。これでいいんだろうか、と悩むこともあるかと思うんですけど。**もし、そういうときには、こういうふうにみんなで集まってお話しできたら、**って。今日は、そういうきっかけになってもらえたらな、って思いました。**みんな、そういう風になる可能性はいくらでもあるので。私も、学生の頃、思い出してみると、中学生とか高校、大学でも、結構学校行きたくなくて。今思い出してみると、この「13日以上欠席」だったなと！何か不安だったり、失恋した後休んだりとか。大学の時は結構ひどくて、何か行かないと行けないと思っているのですが、パワーが出なくて。それで、行かない自分に自己嫌悪に陥ったり。そういうことはありましたね。だから、充電不足になっているというのは、私もよく分かります。誰にでもあり得ることですし、そんなの普通のことだから心配しないでもいいよ、と。**今は人生100年時代ですから！多少遅れても、全然大丈夫ですから。**勉強は、一生やらなければならないことですし、二十歳までに勉強を終えなければならないという時代は、もう終わりました。本当に、**これから一生勉強なので、自分の好きなことをやっていって、必要になれば後からやればいいし。**やらなくても済む場合もありますし。

本当に、今日はありがとうございました。皆さんにつらいお話しまでさせてしまったと思いますけど、本当にありがとうございました。これで、今日のサロンを終わりたいと思います。さようなら。

(文責・川中子 今回、座談会を録音した音声聞き取りにくく、不正確な部分があるかもしれませんが、ご了承ください。)

